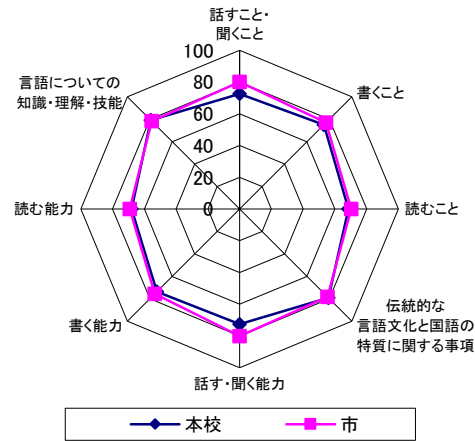


宇都宮市立陽西中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	72.5	80.1	77.9
	書くこと	75.0	76.8	65.3
	読むこと	68.6	70.3	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.2	78.3	74.3
観点別	話す・聞く能力	72.5	80.1	77.9
	書く能力	73.6	75.6	64.2
	読む能力	68.1	69.2	65.4
	言語についての知識・理解・技能	79.0	78.4	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

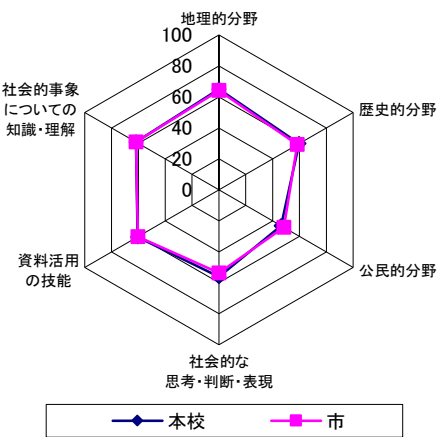
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市の平均正答率を7.6ポイント下回っている。 ○「話の内容を正確に聞き取ることができる」ことの正答率はわずかながら市の正答率を下回るものの、ほぼ同程度である。 ●「司会者の工夫を聞き取ることができる」の正答率は60.8%で、市の平均より17.1ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も話し合い活動や講話等を聞くうえで、話の内容を正確に聞き取るよう指導していく。また自分の考えを述べる際には、その根拠を明確にすることを意識するよう指導を継続する。 ・話し合い活動の中で、司会者の役割を明確にし、進行するうえでの工夫について指導していく。
書くこと	市の平均正答率を1.8ポイント下回っている。 ○「社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめることができる」の正答率は53.9%で、市の平均より2.5ポイント高い。 ●「自分の考えの理由を明確に書くことができる」の正答率は83.6%で、市の正答率に比べ5.3ポイント低い。	・意見文を書く際、広く社会生活に目を向け、新聞や図書、またはインターネット等から情報収集をして論理的に根拠をたて、自分の立場を明確に意見を述べる指導を継続する。 ・今後は、文学的文章、説明文などジャンルを問わず、学習のまとめや発展学習として自分の考えを書く練習を積み重ねていく。その際、自分の考えを支える理由を、短く簡潔に、相手に伝わるように書くよう指導していく。
読むこと	市の平均正答率を1.7ポイント下回っている。 ○説明文の「構成や展開を捉えること」は正答率が47.3%で、市の平均より2.4ポイント高い。文学作品の「登場人物の心情を捉えること」も2.3ポイント高い。 ●説明文の「展開に即して内容を捉え整理してまとめること」は正答率が61.8%「要旨を捉えること」は正答率が52.0%で、それぞれ市の平均より7.0ポイント、6.5ポイント低い。	・普段の授業の中でも読解指導を継続すると共に、日常の読書の中でも、楽しむ読書から、考える読書をするよう、今後も継続指導をする。 ・説明的文章においては、まず小段落ごとの要点を的確に捉える練習をし、文章の構成や展開に即して読み取することを指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市の平均正答率を0.9ポイント上回った。 ○「中学校第3学年までに学習した漢字を読むこと」のうち最も高い平均正答率は74.0%で、市の正答率より18.4ポイント高い。「小学校で学習した漢字を書くこと」の平均正答率は79.4%で、同様に7.5ポイント高い。 ●文法・語句に関する知識のうち、「敬語の理解」の平均正答率は73.5%で、市の正答率に比べ5.1ポイント低い。	・引き続き漢字練習帳を十分に活用し、定期的な小テストを行うことにより定着を図る。 ・敬語については尊敬語、謙譲語の使い分けの知識を正確に身に付けさせ、日常生活で的確に使えるよう適宜指導していく。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	65.0	64.1	57.5
	歴史的分野	59.7	58.4	52.8
	公民的分野	46.3	48.5	40.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	56.1	53.6	47.5
	資料活用技能	60.7	60.3	53.3
	社会的事象についての知識・理解	61.8	61.8	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

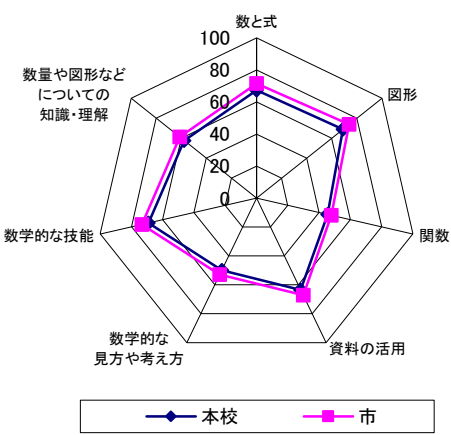
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○市の平均よりの1ポイント上回っている。世界地理・日本地理ともに良好である。学習課題を明確にし、課題解決的な授業を積み重ねていること、視聴覚教材を適時に活用することで興味関心を高める工夫の成果と考える。 ●市の平均を3ポイント下回ったものは、造山帯の位置を確認する問題である。また、地図の活用や国の確認の問題も市の平均を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・従来から実施している分かる授業を推進するとともに、生徒の興味関心を高める工夫を継続させる。 ・位置確認するため、地図帳を活用していくとともに、作業を通して各自が確認できる時間を確保していく。
歴史的分野	○市の平均よりの1, 5ポイント上回っており、おおむね良好である。また、観点別では、思考・判断・表現において、正答率が高い。 ●市の平均を3ポイント下回ったものは、西暦と世紀の表し方と、江戸幕府の大名支配の問題である。また、資料活用の技能が十分に身に付いていない。	・従来から実施している適切な課題を設けて行う学習を継続させ、課題を解決していく過程で思考・判断・表現の育成を図る。また、振り返りを実施し、長いスパンで時代の特色を明らかにしていく学習も継続させる。 ・年号と世紀との関係を何度も繰り返し学習することで、定着させる。 ・1つの資料から様々なことを読み取る学習を意図的にを行い、資料活用の技能の育成を図る。
公民的分野	○市の平均を上回っている内容は、社会権と新しい人権に関する問題である。また、観点別では、思考・判断・表現に関する正答率が高い。 ●市の平均を3ポイント下回っている。特に知識・理解を問う問題での正答率が低い。	・新出の用語は、その意味を説明するとともに、他の社会的事象との「関連を明確にしていく。 ・将来の主権者としても資質能力を育成するために、意思決定する場を学習活動に計画的に位置づけ、実践する。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	67.3	71.5	66.8
	図形	68.9	73.8	70.4
	関数	45.4	47.8	41.6
	資料の活用	63.5	67.1	61.4
観点別	数学的な見方や考え方	49.9	52.8	45.8
	数学的な技能	69.1	73.3	68.1
	数量や図形などについての知識・理解	57.7	61.2	57.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

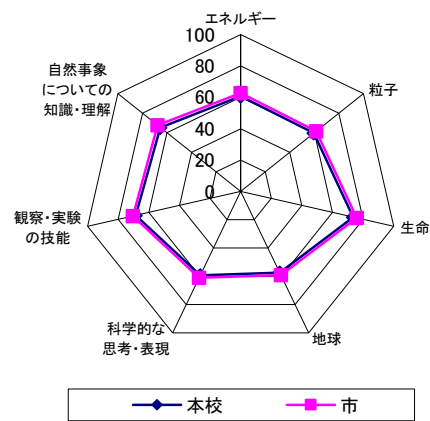
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	市の平均正答率を4. 2ポイント下回っている。 ○乗法公式を使って因数分解することについては、市の平均を1. 0ポイント上回っている。 ●自然数の意味の理解においては、市の平均を4. 8ポイント下回っている。単項式の乗除計算については市の平均から7. 5ポイント、分母を有理化し、根号を含む式の加減計算については9. 7ポイント下回っている。	・計算の領域については、市の平均を下回るところが多い。乗法公式や因数分解など、基本的な計算は市の平均に近いところがあるが、特に平方根の計算や方程式など、答えを求めるために複数の処理、技能を必要とするものについての正答率が低い。十分な定着を図るため、繰り返し練習する機会を増やしていく。また、週末課題などを設定し、技能の向上、理解を深めることを促していく。
図形	市の平均正答率を4. 9ポイント下回っている。 ●折り目の線を、垂直二等分線と捉え、作図することについては5. 1ポイント、図形を平行移動させたときの距離についての理解では8. 0ポイント、証明の必要性和意味の理解では5. 7ポイント、市の平均を下回っている。	・基本の作図のかき方について理解している生徒は多いが、作図の性質や、どの場面での作図を使うのかということについての理解が不十分である。その作図を行う理由や図形の性質を明確にしながら指導していく。 ・仮定と結論については、理解が不十分である。言葉の意味を確認するとともに、証明問題において何度も確認する機会を持ち、理解を深めていく。
関数	市の平均正答率を2. 4ポイント下回っている。 ○グラフ上に頂点をもつ正方形の辺の長さを求めることについては、市の平均を2. 3ポイント上回っている。 ●グラフの特徴を説明することについては3. 4ポイント、事象の関係が1次関数であると捉え、値を求めることについては9. 5ポイント、市の平均を下回っている。	・市の平均と比較したときに、大きな差はないところであっても、関数や値の変化について理解が不十分であるところが見られる。また、基礎知識をもとに答えを求める発展問題についての正答率が低い。今後は、関数の意味や特徴についての理解を深める課題を多く取り上げていく。また、根拠を明らかにして、論理的に分析する問題や必要な値を求め、それを活用していく問題に触れる機会を増やし、論理性や理解を深めていく。
資料の活用	市の平均正答率を3. 6ポイント下回っている。 ○ヒストグラムの特徴を読み取り、それを根拠にして考えが適切かどうかを説明することについては0. 8ポイント平均を上回っている。 ●度数分布表から階級の相対度数を求める問題では、8. 1ポイント、中央値については4. 4ポイント、確率の問題では6. 3ポイント市の平均を下回っている。	・相対度数の理解が不十分である。意味を理解すると同時に、表やヒストグラムなどから相対度数を求める練習の機会を増やす。また、代表値については具体例を示しながら説明するとともに、それぞれの性質をより深く理解できるよう適切な教材を考慮していく。 ・確率について、意味の理解が不十分である。具体的な事象を扱う場面を増やし、理解を深める。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	60.7	62.7	57.6
	粒子	59.6	61.5	57.7
	生命	73.5	75.8	72.1
	地球	57.4	59.0	45.0
観点別	科学的な思考・表現	59.3	61.0	54.8
	観察・実験の技能	68.6	70.4	64.1
	自然事象についての知識・理解	65.4	67.6	62.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

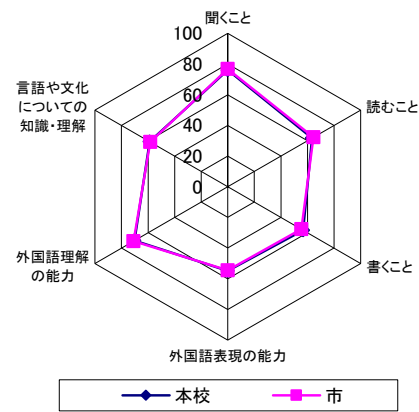
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市の平均を2.0ポイント下回る。 ○テープの長さから、そのテープが記録されたときの台車の平均の速さを求める問題は、市平均を3.6ポイント上回る正答率であった。現象を数値化して指導をして、練習問題を行った成果であると考えられる。 ●飛行機に持ち込めるバッテリーのワット時について考えるを問題では、市平均を3.4ポイント下回り、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・エネルギー分野は、目的を明確にして実験を行うことで、結果や考察をまとめる作業に繋げていく。 ・事象を作図させたり、実験測定値をグラフ化させる機会を増やすことで理解を深めさせる。
粒子	平均正答率は、市の平均を1.9ポイント下回る。 ○メスシリンダーを使って物質の体積を測る問題の正答率が市平均を1.7ポイント上回った。実験の測定を通して、理解が深まったと考えられる。 ●鉄の見分け方を考えるの問題の正答率が、市平均を1.1ポイント下回った。この分野の知識が身に付いていないためであると考えられる。	・実験を通して、技能を身につけさせていく。 ・粒子分野では、実験の注意事項を1つ1つ確認して、実験結果を通して考察し現象の理解を深めさせていく。 ・目に見えないイオンについて指導する際、モデル図を作図して、生徒が視覚化できるようにすることで、イメージをもって学べるようにしていく。
生命	平均正答率は、市の平均を2.3ポイント下回る。 ○節足動物の分類の問題の正答率は、市平均を0.8ポイント上回った。甲殻類や昆虫類の違いについて理解があったと考えられる。 ●ヤモリとイモリの分類の問題で市平均を6.4ポイント下回った。両生類とは虫類の違いについて理解が不十分であったと考えられる。	・生命分野では、実験とともに、観察を通して考察し、現象の理解を深めさせながら、知識を積み上げさせていく。 ・動物や植物の分類では違いを見つけさせ学ばせていく。特に、動物分野では、呼吸の仕方、体温の特徴、なかまのふやし方、体や表皮の特徴より分類させていく。
地球	平均正答率は、市の平均を1.6ポイント下回る。 ○地層が新生代に堆積した理由を推測できるか問題の正答率が、市平均を0.5ポイント上回った。地層についての理解が深まっていたと考えられる。 ●石灰岩の見分ける方法の問題の正答率が4.6ポイント下回った。この分野の知識が身に付いていないためと考えられる。	・地球分野では、岩石や太陽の動きなどの観察のほか、映像資料なども活用することで、視覚的な援助を行っていく。 ・結露が起こる仕組みについて、日常生活と関わってくるので、なぜ起こるのかだけでなく、結露を防ぐ方法などにも着目することで、理解を深めさせていく。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	76.1	76.8	73.1
	読むこと	63.4	64.5	59.9
	書くこと	56.7	55.3	59.7
観点別	外国語表現の能力	54.9	54.5	59.0
	外国語理解の能力	70.2	70.9	65.9
	言語や文化についての知識・理解	58.8	58.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は市の平均よりも低く、市の平均正答率を0.7ポイント下回っている。 ○対話の内容を聞き取り、応答する問題では、市の平均を4.6ポイント上回っている。 ●市の平均を下回っている問題が10問中7問あり、特にまとまった英文を聞いて要点を聞き取る問題の一つにおいて市の平均を4.1ポイント下回っている。	・授業中、教師の英語による発話を増やすと共に、ALTをより効果的に活用して、日常的に英語の音声に親しむことのできる時間を増やす。また、音のつながりを意識して英文を音読する練習を多く取り入れ、継続していくことで、聞くことの力の向上につなげる。生徒に興味・関心を持たせるためにも、英語の歌なども活用し、授業外で英語の音声に親しむ機会を増やすきっかけを作れるような授業を展開していく。
読むこと	市の平均正答率を1.1ポイント下回っている。 ○語形・語法の知識・理解を問う問題のうち、禁止を表す助動詞の問題においては、市の平均を3.7ポイント上回っている。 ○長文の読み取りにおいては、5問中3問で市の平均を上回っている。 ●語形・語法の知識・理解を問う問題では、4問中3問において市の平均を1.4～5.1ポイント下回っている。	・長文や資料の説明文、対話文などを読み取る力は、問題によって正答率に差があることから、1年生のうちからまとまりのある文章を読む機会を設定し、学年が上がるにつれて段階的に文章量を増やして慣れさせる。また、語形・語法の知識・理解を問う問題で正答率が低いことから、1年生の時からスパイラルに練習を繰り返す、丁寧な指導を心掛け、文法知識の基礎基本を定着させていく。
書くこと	平均正答率は市の平均正答率を1.4ポイント上回っている。 ○単語を正しく書く問題では、市の平均を8.4ポイント上回っているものもあった。 ○一番好きな季節について英文を書く問題では、第1文に好きな季節が書かれている割合が市の平均を13ポイント上回っており、無回答率も市の平均より低い。 ●単語を並べ替える問題では4問中3問で市の平均を下回っており、6.5ポイント下回るものもあった。	・単語を正しく書く問題では正答率が高く、日頃の練習やこまめな確認テストの成果と考えられる。英作文においては、文法やつづりの誤りがあったり、つながりがよくないために正答とならないが、英文を書こうとする意欲はあり、無回答率も低いことから、今後の継続指導により改善させていく。並べ替えの問題での正答率が低いので、今後は語順を意識した上で、他の領域と連携も図りながら、多くの英文に接する機会を増やしていく。